

19 成功のための秘訣

こうしたことはすべて、大いなる謙虚さと意向の清さ、すなわち出版の使徒職という彼の特別な使徒職をとおして神の栄光と人々の救いを求めるといふ意向をもって果たした。けっして個人的な虚栄のためにはしなかつた。「虚栄心の強い人間が熱心な修道者になつたのを見たことがない。けっしてない。けっして」と書いたことがある。

また、行動主義そのものからくる単なる衝動にかられて行動したことも決してなかつた。ただ、万事、神の栄光のためだつた。

仕事が実するための第一の秘訣は、彼に言わせれば、聖人であることだ。「私は、会員である兄弟たちに対して特に望みは持っていない。ただ彼らの中に聖人がたくさんいるようにと、それだけを望んでいる。」

一九一九年一月、聖パウロの回心の祝日に言ったその情熱あふれることばを聞こう。忠実なジ

ヤツカルド神父がその手記に残してくれた、キリスト者であるものにとつて種々の意味で役立つ。「聖性の道では一の進歩も、五の進歩も、さらには十の進歩もできる。自転車でも一回足を動かせば一メートルでも十メートルでも走れるのと同じだ。みなに勉強時間を増やす方法を教えたことがある、今度は聖性の道での進歩の度を増加することを習わなければいけない。

「努力をするとともに、頭の中で『かけ算』をしなければいけない。実を實をことだ。一回良心の糾明をして十回分の成果をあげる。十回糾明をした分ほど、また、一回の聖体拝領でも十回聖体拝領をしたほどに、聖性の道に進歩しなければならぬ。

私の言うことに注意してください。耳をよく傾けて、心の中で眠ってはず、目を覚ましていなさい。一つ一つの努力で、十倍進歩しなければならない。なぜか？ 主があなた方をきわめて高い聖性に召しておられる。そこには自分の力や普通の恵みだけでは到達できないからだ。あなた方は修道院の中だけで生活している司祭や修道士をはるかにしのぐものでなければならぬ。

神学の先生は気がふれた！ いや、そうではない。アルベリオ神父個人として話すときは、狂気のこともある。だが、いま話しているようにあなた方の父として話しているときは、よく言っておくが、狂気ではない、あなた方は世の司祭や修道士よりも聖なるものでなければならぬ。……神があなた方の中に値をつけられないほどの宝、天使たちもねたむほどの宝、すなわち、

よい出版のための召命を置かれたからだ。

あなた方は大きな山のふもとに立っている。登っていきなさい。あなた方に与えらねた地平線を見るがよい、それは全世界である。ボールがすべすべしてまん丸なら、滑らかになった大理石の上に置けば、ただ、一点しか大理石には触れない、ボール全体はこの一点に支えられている。あなた方の良心には百万、三百万、一千万の魂がかかっている……だからこそ、大いに聖なるもの、世の司祭たちよりもほるかに聖なるものでなければならぬ。

多くの人々を救うこと、一千万人を救うか、百万人だけを救うかがかかっている。

神学の先生は、今夜は一千万だなんていいだして、変なのではないか。いや、言っておくが、よい新聞記者なら、もつと多くの人々を救えるのだ。目を挙げて、こずえが見えないような大きな木を見上げなさい。これが私たちの家だ。ほんとうに大木だ、^{アルクローネ}とところで、あなた方は根つこのところである、現在のこの家はこの大水の根っただけである。もし、自分のうちにある宝をわかつていたら、主がどこに呼んでおられるかを知っていたら、みな生き生きと生氣にあふれて、私を放つてはおくまい、いや主を放つてはおかず、いつも主の回りに来て、『私はこれがまだ必要です。あれも必要です。この恵みもお願ひします』と言いつづけることだろう……。

神学の先生は私たちに今夜は何を言いたいのだろうと思うかもしれない、私はあなた方を完徳

の山に連れていきたい。どれほど聖人でなければいけないかわかっているだろうか？ 聖パウロの精神を持たなければいけない、神が聖であるように、あなた方も聖でなければいけない、その必要がある。だからこそ、一つ一つの努力で十倍を得る必要がある。一日で十日分進歩し、十年で百年分ぐらい聖人になるのだ。

それではどうすればよいのか？ この増幅器はどこにあるのか？ 私たちは欠点だらけ、みじめさいっぱいである。自分を低く置き、みじめさだらけであることを自覚することが必要である。自分の魂を一度でも見ることができたら、気絶するだろう。福者（訳注Ⅱ現在は聖女）マルガリタ・アラコクは、セラフィンのような人になって、み心のイエススのたび重なる出現を受けるようになってから、神が彼女にその魂を見せたとき、彼女は気をうしなってしまった！ 私たちは低くへりくだろう自分では進歩できないのだから。そして、聖人、しかも大聖人になろうという力強い、きっぱりとした、寛大なよい意志がある。前にも話したように、神が私たらを予定しておられるような聖人になることだ。どんな努力も、どんな犠牲もやり遂げる、だれにもひけをとらない意志。

これが第一の手段である。

第二は、自分を過信しないこと。自分の力を頼りにせず、いっさいの信頼を神にかけ、そして

祈ること。

神は欠点から私たちを解放することができるといふことを信じる必要がある、神は私たちが大聖人になることを欲しておられるといふことを信じる必要がある……神はこの恵みをあなた方に与えたいと思っておられるといふ私のことを信じる必要がある。あなた方の一つ一つの努力が十倍の実を結び、神は一つ一つの祈りのうちに十倍の折りで下さるつもりのお恵みをあなた方に下さることを信じる必要がある。

このことはほんとうである。神が望んでおられることだ。信じなさい。

信じる人は、聖性の道、完徳の山を走っていく、自分の努力だけに頼っていく人は、ゆっくり、やっとの思いで歩き、一歩歩いてはつまずき、一つ勝利をおさめては倒れ、立ちあがっては倒れ、苦勞に苦勞して前進する。

もつと神を頼りにする必要がある。健康のためにも。仕事のためにも、早くじょうずになり、神の栄光のためだけに上達できるように神を頼りにする必要がある。勉学のために、早く習い、四倍習えるように神を頼りにする必要がある。信心のためには特別に神を頼りにする必要がある。神は私たちが食物に不足するようないことはお許しにならない、というぐらいまでし届かない信仰の持ち主もいる。これはまったく愚かしい話だ。こんなことでは、主は満足なさらない。私

たちをお叱りになる。神の国は飲良にあるとでもいうのだろうか？ 私たちは自分の聖化についてもっと信仰を持つ必要がある。この信仰から、私たちはまだ遠い。あなた方のだれも、持つべきまことの信仰をまだ持っていない。つまり山を動かす信仰だ。神は・・あなた方を高い高い信仰に招いておられる。だが、神はご自分でなさりたい、ご自分の腕でお働きになりたい、私たちの家は神の摂理で生きているのだから。

この家で神が受けるいちばんひどい侮辱は神への信頼の欠如である。神が全部しているのに、私たちは神に信頼していないという有様だ・・イエズスは復活である。欠点の墓から私たちを復活させてくださる。生命である。霊的進歩の道に私たちを立たせてくださる。彼は言われた、まことにまことに私は言う、私の名で父に願うなら、何でも父はそれをあなたに下さる。イエズスは、彼の功徳のゆえに願うなら、何でも父は下さるということを二度も誓っておられる。(神の誓いは腕白小僧が『誓う』というのとはわけが違う。) さて、神は仏たちに聖性を与えたいと思っておられる。私たちがそれを願うことを望んでおられる。私たちは聖櫃の前に行き、イエズスのみ前に行つて、誓いを破らないでくださいとお願ひし、それを下さるように申しあげよう。祈り、さらに祈ること・・そして言いなさい私にはたくさん欠点があります。まだこんな悪い習慣、あんな悪い癖があります。でも、それが何だ。私はイエズスによく祈り、イエズスが私

をそれから解放してくたさる。私にはいろいろな徳が欠けている。しかし、それが何だ。私は一生懸命祈ろう、イエズスがそれを下さる。

この信仰を受けいれるなら、いまから一年のうちにすっかり変わっているだろう。あなた方は、どうして私はあの欠点を克服し、あの徳が獲得できたのだろう、とびつくりするに違いない。そうだ、『私一人でやったのではなく、神の恵みがともにあった』のだ。だから、勇気を持ちなさい、神が呼んでくださるところをじつとみつめなさい。よい意志を持つこと、自分自身を信用せず、神と祈りに全面的な信仰を持ちなさい。イエズスは一瞬のうちに聖パウロを変えられた。これこそ、きょうの祝日で私たちが果たさなければならぬ回心である。」